



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより
 学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

令和 7 年度 第 1 1 号
 令和 8 年 3 月 2 日 (月) 発行
 さいたま市立宮原中学校
 ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp>
 メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp



「『遊ぼう』っていうと『遊ぼう』っていう～こだまでしょうか」

校長 田 中 和 浩



「草の戸も 住み替はる代ぞ 雛の家」 松尾芭蕉
 「碧天や 雪煙たつ 弥生富士」 水原秋桜子

「『遊ぼう』っていうと、「遊ぼう」っていう」これは、金子みすゞさんの「こだまでしょうか」という詩の冒頭文です。東日本大震災後のACジャパンのCMでも使用され、広く知られるようになりました。

こだまでしょうか (作：金子みすゞ)

「遊ぼう」っていうと 「遊ぼう」っていう
 「馬鹿」っていうと 「馬鹿」っていう
 「もう遊ばない」っていうと 「もう遊ばない」っていう
 そうして、あとでさみしくなって、
 「ごめんね」っていうと 「ごめんね」っていう。
 こだまでしょうか、
 いいえ、誰でも。



星とたんぽぽ (作：金子みすゞ)

青いお空の底ふかく、
 海の小石のそのように
 夜がくるまでしずんでる
 昼のお星は眼にみえぬ。
 見えぬけれどもあるんだよ、
 見えぬものでもあるんだよ。

散ってすがれたたんぽぽの、
 瓦のすきに、だァまって、
 春のくるまでかくれてる、
 つよいその根は眼にみえぬ。
 見えぬけれどもあるんだよ、
 見えぬものでもあるんだよ。



この詩が伝えようとしているのは、投げかけた言葉や行いが、相手や環境を介して自分に返ってくるという「因果応報」を表現した作品です。

相手を傷つければ相手からも傷つけられ、優しくすれば優しさが返るという道理を「こだま (やまびこ)」にたとえ、人間関係の根幹にある優しさや共感の大切さを説いています。

どこにでもある、誰もがみな経験したことのある、子どもの頃の自然なやりとりです。

勇気をもって自分から「遊ぼう」って声を掛けてみると、豊かな人間関係が広がります。「馬鹿」って悪口を言って友だちから離れると、友だちと過ごした時間を思い出して淋しい気持ちになります。感情に任せて放った言葉を反省し、正直に「ごめんね」と言えば、また友だちの優しさに触れることができます。

ちゃんと「ごめんね」と言える人であり、「ごめんね」という人を許せる人でありたいと、そう思います。

金子みすゞさんの詩を、もう一遍、紹介します。「星とたんぽぽ」です。「見えぬけれどもあるんだよ」というフレーズを通じて、目に見えるものだけでその価値を判断せず、隠れた存在や真実に思いを馳せることの大切さを伝えています。昼間の空に隠れた星や、土の中で春を待つたんぽぽの根のように、静かに生きる力を肯定しているのです。

金子みすゞさんの詩には、日常の忙しさや目に見える結果に追われる中で、見落としがちで温かい視点や想像力を思い出させてくれる、そんな普遍的なメッセージが込められています。